

群馬県立渋川高等学校 学校評価一覧表 (令和7年度版)

(別紙様式)

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①自分の学校が好きと感じている生徒の割合は80%以上である。	・特別活動や学校行事の運営をできる限り生徒主体になるように計画し、生徒が活躍する場を設け、生徒の達成感の向上を図る。	A	A	A	・約88%以上の生徒が満足できると回答している。より学習指導を充実させ、学校行事においても生徒主体となるようにする。 ・学校行事については生徒会とも連携をとり、学校がより活気が溢れる場となるようにしたい。	・学校が好きだと思う素直な行事に期待する。 ・力を合わせてやり遂げる大切さを指導して欲しい。
		②5分6限の授業に満足している生徒・保護者が80%以上である。	・十分な教材研究に基づくわかりやすい授業の実践をする。 ・チャイムスタート、エンドを実践し学習時間を確保する。 ・シラバスの活用と改善に努める。 ・思考力・判断力・表現力の能力向上を目標としてICT機器等を活用しながら授業改善をはかる。	A	A	A	・5分授業においては職員・生徒ともに定着しており、約88%の生徒が満足できると回答している。今後もシラバスや観点別評価を基にわかりやすい授業の実践をすすめる。 ・授業改善に向けた職員研修等を定期的に行う。	・生徒、保護者共に満足度が高く良い。 ・概ね満足。 ・左記のように進めてほしい。
		③授業日を確保しながら学校の活性化を図っていることを肯定的に受け止めている生徒・保護者が80%以上である。	・授業時間を確保しながら、学校行事等とのバランスを考慮し、メリハリある生活の実現により生徒・保護者の満足度をさらに高める。	A	A	A	・満足できると回答している保護者が約95%に対して、生徒は約84%と低い結果となった。 ・生徒会等と連携しながら新しい行事の模索をしていく。	・ニーズに合わせた行事があると良い。 ・行事を行うタイミングを工夫する。 ・生徒の満足度を上げる取組に期待する。
		④類型選択や科目選択に満足している生徒が80%以上である。	・科目選択説明会を開催し、選択科目や類型選択の位置づけやゆきみを分かりやすく説明し、面談などで個別に理解を深めさせる。またPTA総会等を通じて保護者の理解も深めていく。 ・本校に適した教育課程の検討を行う。	A	A	A	・類型・科目選択については、生徒の進路希望を踏まえて、面談等を丁寧に行い生徒の進路実現につながるよう指導を行い、約91%の生徒が満足している。 ・進路指導部、探究部と連携してキャリア教育や探究活動を充実させる。また、教育課程においては適宜見直しをおこない、改良点や問題点等がないか検討を続ける。	・満足している生徒が多く、先生方の努力が実っているようで感謝する。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑤少人数・習熟度別授業を肯定的に受け止めている生徒が80%以上である。	・少人数・習熟度別クラス分けの時期や方法を工夫する。 ・学力に合った適切な授業を提供し、満足度を高める。	A	A	A	・各学年とも少人数・習熟度別授業に満足している生徒数が多い。 ・生徒のニーズに応えられるようクラス編成を行い、進度や難易度の調整等を行う。	・クラス分けの基準を工夫し、より満足感のある方法を検討する。
		⑥授業や学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が80%以上である。	・教科会議や職員研修で授業アンケートの結果を分析し、生徒が主体的・自主的に取り組めるよう授業を改善する。	A	A	A	・全体的には目標値を上回っているが、「ある程度満足」の割合が大きい。授業アンケート結果の検討や職員研修を実施するなどして生徒が主体的・自主的に取り組める授業を目指す。	
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑦家庭学習時間の平均が1、2年生は2時間以上、3年生は4時間以上である。	・学習時間調査の結果を進路指導部、学年会で検討し、学習時間の増加に向けた課題や面談を通して生徒の学力の伸長を図る。その際に学年間、クラス間の指導に差異が出ないように心がける。	A	B	B	・1、2年生では目標数値を(学習時間調査②9月)を達成することができた。しかし、3年生はできなかった(学習時間調査①6月)。原因としては、調査時期がインターハイ予選、文化祭準備が重なっていることがあげられる。ただし、調査結果分析を聞いた3年生は危機感を感じたため学習室の利用者が増加した。	・家庭学習の習慣は、高校生のみならず中学生でもとても難しい問題。 ・学習室利用推進は受験に向かう気持ちを作るのに良い。 ・自己実現のための目標を持てる指導が大切。
		⑧全国模試における平均偏差値(型別・科目別)が50以上である。	・模試結果の分析を教科担当者だけではなく、教科・学年全体で検討する機会を設ける。出てきた課題に対して進路指導部と学年、教科が連携して必要に応じた策をとる。	B	B	B	・1年生は目標数値を達成できなかった。2年は国数英総合型、5教科総合文系型で、3年生は6教科9科目文系型で達成できた。1年生に対しては卒業時の進路を意識させ、学力向上に努めさせたい。	・早くから進路目標が立つと良い。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑨生徒の動向に関する学年会議や分掌会議を週1回以上行い、情報の共有を図る。	・時間割に会議の時間を組み込み、情報交換を密に行う。 ・学年と分掌の情報交換を密にする。	A	A	A	・毎週月曜日に生徒指導部会議を設定し、生徒情報や学校の状況・方針について協議した。 ・生徒情報共有シートを活用して生徒情報の効率的な共有を図っている。	
		⑩学級担任による個人面談を年に3回以上実施する。	・生徒との面談時期を設定し、計画的な相談活動を行う。 ・日常的な声かけを継続する。	A	A	A	・二者面談・三者面談期間を設けて全員から相談活動を行った。 ・それ以外の期間も、日常的な会話を通じて生徒の状況を把握して指導に生かしている。	・学校とコミュニケーションが取れることは良い。
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取り組みを積極的に進めていますか。	⑪学校はいじめの防止や早期発見に向けた取り組みを積極的に進めるとともに、相談窓口などをしっかり伝えていくと考えている生徒・保護者が80%以上である。	・定期的にアンケートを実施し、生徒の悩みに早期に対応できるようにする。 ・生徒会を中心にいじめ防止月間などを利用して、学校全体でいじめ防止に向けた取り組みを行う。 ・教育相談便りやリーフレットを定期的に発行、配付する。	A	A	A	・每学期初めに「生活・相談アンケート」を実施して生徒の悩みやいじめの有無について確認した。 ・いじめ防止月間はもちろん、日常的にいじめ防止につとめ相談があれば迅速に対応している。 ・保護者・生徒とも、80%以上が「取り組んでいる」と評価している。	・デリケートな話題も家庭で話すべき。
		⑫学校行事や部活動に積極的に参加していると考えている生徒(子供が積極的に参加していると考えている保護者)が80%以上である。	・学校行事に向けた準備や部活動の様子を生徒会新聞等で紹介するなど、計画的かつ積極的に学校行事や部活動を実施、運営し、生徒が学校生活に前向きに取り組める体制、環境を構築する。	B	B	B	・生徒会本部からの連絡はClassroom上で行った。生徒会新聞の発行も含め、適切な方法で情報共有していきたい。 ・マラソン大会がなくなり定期戦が終了したことで、新たな行事を創出するべく検討を始めている。	・定期戦に変わる行事に期待する。 ・新たな行事がはやく創出されることを期待する。
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑬1日の平均遅刻者数は、全校生徒の1%以下である。	・家庭との連絡を密にし、欠席・遅刻・早退の防止に努め、基本的な生活習慣の確立を図る。特に遅刻指導に重点を置き、時間厳守の習慣化に努める。	B	B	B	・1日の平均遅刻者は在籍日1.6%であるが、昨年度よりも改善されている。 ・学年や担任が家庭と密接に連絡を取り、登校を促している。	・生活習慣は、家庭と学校で連携して気を配るべき。
		⑭交通事故の発生率が全校生徒の1%以下である。	・SHRなどを通じて日頃から安全意識を育てる指導を行い、交通ルールの遵守について徹底するとともに、交通法規について学ぶ機会を設ける。 ・交通安全教室やマナーアップ運動などの機会を利用して、交通マナーの向上に努めさせる。	B	B	B	・交通事故率は2.6%であった。新入生に対して交通安全委員の2年生が中心となって交通安全教室を開催し、生徒目線の安全講話を行い、交通ルールの周知・危険防止を図っているが、1年生に事故が多い現状である。 ・朝や放課後に校門にて登下校指導を行い、交通ルール・マナーの遵守やヘルメット着用を呼びかけた。 ・地域の交通状況について、適宜情報を生徒連絡し、交通社会人としてとるべき行動について意識高揚を図った。	・ヘルメット着用の啓発を続けてほしい。 ・交通事故は0%であって欲しい。
⑮安心して学校生活を送っていると考えている生徒・保護者が90%以上である		・学年・学級運営において生徒一人一人との関わりを密にするよう配慮する。 ・規律正しい学校生活を送れるよう指導するとともに、教育相談やスクールカウンセラーの活用方法を周知するなど、生徒が相談しやすい環境を整える。	A	A	A	・日々のHR活動等において教員と生徒が話しやすい雰囲気づくりを心掛けるとともに、積極的に挨拶を行うことにより人間関係の構築に努めている。 ・定期的にスクールカウンセラーが来校しており、生徒からの相談を受けられる体制を整えている。	・話がしやすい先生がいることは、保護者としてもとても助かること。 ・生徒は大人しく礼儀正しい。 ・盗難事件があったことは残念。	
⑯進路に関わる資料・教材を有効に活用している生徒・保護者が80%以上である。		・進路に関わるデータ、資料や教材を、生徒が有効に活用できるよう指導する。また、保護者にも進路資料等が届くよう配慮する。	B	B	B	・生徒の活用率が全学年70%台であり、昨年度から10%目標数値に近づいた。全学年ネット経由で志望校を登録させるなど、なるべく進路情報に触れさせる取り組みが幸いしていると思われる。今後、さらに深く考察させる仕組みを考えたい。	・進路実現に向けて良く努力している。 ・早くから進路情報によって自分の志望を考えるきっかけになるのがとても良い。	
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑰進路指導計画に基づいて実施している補習や学習室の環境におおむね満足している生徒が80%以上である。	・生徒の学力に即した補習が実施されているか学期単位で確認・修正していく。また、学習室の環境整備に努める。	A	A	A	・生徒の満足度は約83%であり、概ね良好である。ただし、昨年同様2年生の満足度は低い。特に、土曜補習はクラス単位で実施であり、各個人に適用しないという感覚になっていくためと考察される。また、学習室利用者は12月現在、1日平均20名弱である。	・補習内容には様々な要望があるようだ。聞き入れてほしい。 ・学習室の環境整備が必要か。
		⑱3年間を見通したキャリア教育プログラムへの肯定的な参加が80%以上である。	・総合的な探究の時間を活用した本校のキャリア教育「I Program」のスムーズな運営に努める。LHRにおいても適切な資料を作成し、生徒の進路選択をサポートする。	A	A	A	・各学年とも目標数値を達成できた。1年生は90%を超え、2、3年生でも85%を超えている。キャリア教育の意義を実感している生徒が多いと思われる。 ・生徒のより良い進路選択へとつなげていけるように、より充実した内容のプログラムとなるように計画・実践していきたい。	・変化する社会で求められる基本理念を理解させてほしい。 ・キャリア教育の意義は理解しているようだが、i-Proは難しいのか?
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑲進路実現に向けて取り組んでいる生徒が95%以上である。	・授業、家庭学習の充実とキャリア教育・進路学習をその補完としながら、目標を明確にし、その実現に全力を注がせる。	B	B	B	・生徒のアンケート結果は、「努力している」「ある程度努力している」で89%であった。3年生は、95%を超えており、目標数値をクリアした。1、2年生に対してどうキャリア形成をさせるかを、今後の課題としたい。	
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑳Webページを月1回以上更新する。	・保護者・生徒に有用で適切な情報を適宜発信するよう努力する。	A	A	A	・学校行事を中心に学校生活や部活動の取り組み状況等をこまめに更新することができた。 ・Webページのレイアウト等の見直しも行い、見やすくより情報発信しやすいものとなった。	・文化祭等、行事をみせてもらいたい。 ・地域の伝統校として君臨して欲しい。 ・親も中学生も観たくなる情報発信に期待する。
		㉑PTA総会や学年保護者会等に参加している保護者が60%以上である。	・PTA総会・進路説明会・懇談会や学年別進路講演会を集合形式で開催し、保護者への情報発信の場とする。	A	A	A	・PTA総会や学年保護者会の出席率はそれぞれ50%程度であり、全体としては数値目標である60%に達していると考えられる。土曜日に仕事をしている保護者も増えている昨今の状況であるが、今後も保護者が学校を知る機会としたい。 ・PTA総会は駐車場不足の問題もあり、今後書面決議の実施についても検討していきたい。	
		㉒授業公開に参加している保護者が60%以上である。	・PTA総会や学年別進路講演会と併せて授業公開を実施する。また、中学生やその保護者向けの授業公開も同様とする。	A	A	A	・授業公開はPTA総会時と学年保護者会の2回あり、全体として60%以上の保護者が参加している。授業公開を土曜日と平日に分けて実施することで、少なくとも1回は授業や学校の様子を見る機会として今後も実施したい。	
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	㉓学習活動や進路指導においてICTを用いた取り組みに生徒・保護者の80%が満足している。	・授業や探究活動、進路指導の際に積極的にICTを活用し、わかりやすく具体的な指導を心がける。	B	A	B	・職員アンケートは「活用している」また「ある程度活用している」を合わせて62%程度であり、必要に応じて適宜活用している。生徒アンケートについても、学校のICT活用についてほとんどの生徒が満足している。	
		11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	㉔ICTを活用した通知やアンケートに、生徒・保護者の70%以上が満足している。	・ICTを積極的に活用するために、担当者を中心として全職員で推進していく。	A	A	A	・学校、各学年からの通知やアンケート等については、ICTを活用し業務が行われている。
※各学校で必要に応じて評価対象を加える。								